

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200107		
法人名	社会福祉法人愛育福祉会		
事業所名	グループホームめばえ(鶴ユニット)		
所在地	岡山県倉敷市連島町鶴新田1952-1		
自己評価作成日	平成24年12月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	hsaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200107-00&Pref
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成24年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>音楽療法・生け花・手芸教室など利用者が楽しめるアクティビティを提供している。事業所間のコミュニケーションが取れるようになり、合同避難訓練や保育園児とのふれあいの機会が増えてきている。開所から7年が経過して自力では何も出来ない利用者もおられるが、職員の支援で楽しむ事ができている。介護度1から5の方までおられるので、利用者全員の自尊心を傷つけないように配慮している。</p> <p>食材に関しては出来るだけ地元の業者に肉や魚、米などを配達してもらい毎食職員の手作りの食事を提供している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の掲げる理念を基に一年間の目標を立て、実践できるよう努力している。 (23・目標計画実施)		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミステーションを使用しているので順番がきたら掃除している。地域の店で買えるものは買うようにしている。散歩時等、近隣の方とあった時には挨拶を交わしたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	突然に来訪してこられたり電話で相談されることもあるので相談を受けている。高齢者世帯の場合は関わりの中で私達の変化に気付く事があるので、そのような場合は支援センターに報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には倉敷市介護保険課、包括支援センター、サブセンター、民生委員、家族、デイサービス管理者、法人理事長、ホーム管理者等が、そろって開催しており、情報交換や意見を聞く事ができている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課からの参加があり、事業所の実情報告や、取り組み等を伝え、市からの情報や助言を聞くなど、連携は取りやすくなっている。今年度は倉敷市主催の「緑のカーテンコンテスト」に応募した。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に夜間以外は施錠はしていない。身体拘束がどういったものか理解するよう努力している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者の虐待を考える」という冊子を参考に短い時間ではあるがユニット会議時に研修を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、入居されていた利用者が成年後見人制度を利用されていたことがあり、会議時にそれについて勉強し理解を深めた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時や内容の改定がある時は、十分に説明を行い、家族からの疑問点にも丁寧に答え理解を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席して下さっている家族に意見や要望を聞いたり、普段の来訪時でも家族から話ができれば会議の議題にあげ検討をしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常の中で職員からの意見や提案を聞くことができ、その意見を代表者に伝えることができる。また、毎月のユニット会議前に、管理者とユニットリーダーでの打ち合わせ時間を設け、職員の意見等を聞くようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の状況はその都度報告している。条件等についても年度毎に見直しをしている。勤務表が出来上がった渡している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	受講できる研修には職員の力量に合わせて勤務日に受けられるよう調整している。また、資格取得の条件を満たしている職員には受験を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を受講した際に、他事業者と情報交換をし交流している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人と面接し、共同生活で対応できるか判断している。本人の現状、気持ちに耳を傾け、家族を含め関係を築けるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期だけでなく家族と顔を合わせる機会を重ねる中で家族から見た本人の在宅時の生活状況や不安や要望などを伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人や家族と顔合わせをし生活状況を伺いサービスを検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を活かしながら、それぞれの人に来る事をお願いしたり、一緒にするよう努めている(洗濯物たたみ、洗濯干し、調理、片付け、物品の補充など)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	消耗品持参や受診援助など家族と本人が顔を合わせる機会を設け、家族とのつながりを感じてもらえるようにしている。また行事への参加声かけを行っている。日頃の様子を伝え、現在の生活状況を把握してもらえるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来やすい雰囲気作り、面会時には居室でゆっくり過ごしてもらえよう配慮している。行きつけの美容院などあれば入居後も継続して利用していただいている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席の配置をしている。関係が円滑に保たれるよう聴力の悪い方やコミュニケーションをとるのが難しい方には職員が間に入るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際には写真や色紙等を渡している。 退去後家族と連絡する機会があった時には本人の現状を伺っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、本人の意向を汲み取るようにしている。コミュニケーションを取るのが難しい時には家族に相談し、本人の気持ちを考えケアに活かせるようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報以外にも日頃の会話の中で聞いた生活状況などの新しい情報は記録し、職員同士で情報を共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者が出来ること、援助が必要なことを把握し職員全員が周知できるよう記録し申し送りをしている。また状態変化時にはカンファレンスを開き状態や援助方法について職員間で情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または状態変化があった時には会議の時にカンファレンスをして、課題についてどのようにケアをしていくか話し合いをしている (23・目標計画継続)		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に昼夜の様子や本人の言葉を書き、職員間で情報がきちんと共有できるように申し送りをしている。必要時にはカンファレンスにおいてケアの見直しを検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要物品や受診などは基本的には家族にお願いしているが、本人や家族の状況に応じて相談の結果職員が家族に代わり対応している。デイサービスや保育園での活動や行事に参加させてもらうこともある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の家族や身内の方に生け花教室や手芸教室の講師として来ていただき、一緒に活動をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医による外来受診、往診を受けている。受診は基本的に家族対応だが、難しい時には援助している。必要時には主治医宛てに手紙を書いたり職員が受診に同行することもある		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護師が来て健康管理に関わってもらっている。一週間の様子、尋ねたいことを伝えアドバイスしてもらっている。気になる症状があれば診てもらい早期治療に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は医療機関や家族から現状を聞き、退院後の生活援助など今後に向けての話をする機会を設けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当施設では終末期対応ができないことを説明し同意書を交わしている。重度化した時は家族と話をする機会を設け、受け入れ先など今後に向けての話をしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡先・既往歴・服薬説明書をセットしたファイル、職員連絡網、対応マニュアルを用意している。訪問看護師に対応の仕方のアドバイスをもらうこともある。救急法の研修参加に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年毎に日中、夜間設定での火災の避難訓練を利用者と一緒実施している。また地震や水害を想定した避難訓練を法人全体で行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親近感のある声かけをしているが目上の方であることは念頭に置いて接し、自尊心を傷つけないように接している。居室はその方の自宅と同じなので声をかけて入室するようにしている。自分で出来ることはなるべくしてもらい、利用者の気持ちを察しながら必要時には援助をするようにして		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が選択し決められるように、分かりやすい言葉で声かけしている。自己決定が難しい利用者は職員が決めている場合もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の流れは大体決まっているが、体調やその時の気分に沿って、本人のペースに合わせるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月毎に訪問理美容に来てもらい散髪してもらっている。行きつけの店がある方はそちらに通っていただいている。頭髪や着衣の乱れを整えたり爪や髭剃りなどの自分ですることが難しい方には援助を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の好きな物、季節行事には特別メニューを提供している。普段の会話から食べたいものなどを聞き、実際のメニューに活かすようにしている。一緒に調理・盛り付け・片づけをしている。畑で収穫した野菜を使っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じてお粥や刻み食、ミキサー食、高カロリー栄養補助食品を提供している。水分摂取量を1日1000mlを目標に摂取している。摂取状況確認のためチェック表をつけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけをし、必要な方には介助をしている。口腔状態に異変がある時には歯科受診や訪問歯科診療の依頼をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけている。必要な方には定期的に声かけ・誘導をしながらトイレで排泄できるよう援助している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便日をチェックし必要に応じ腹部マッサージで排便を促している。朝食にヨーグルトやバナナを出したり、ミックスジュースやホットミルクなどの飲み物を提供している。排便を促す薬を服用している利用者には排便状況により薬の量を調節している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日置きに入浴しているが、その日の体調や希望を考慮している。決められた時間内ではあるが、その中で可能な限り本人の希望を考慮している。羞恥心に配慮して安全に入浴できている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間しっかり睡眠が取れるようになるべく日中活動を促すようにしているが、一人ひとりのペースやその日の体調に合わせて休息を取ってもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の仕分け、管理を確実にし、服用時には本人の薬であること・日付・服用時間帯の確認をし飲み終えるまで確認をしている。処方変更があった時はケース記録に記載し申し送りをしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや調理など日常生活の手伝いやアクティビティに無理のない程度に参加してもらっている。月二回外部から先生を招いて生け花教室、手芸教室、音楽療法、お茶会をしている。また、利用者が希望する手作業の準備をし、提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期にはウッドデッキにでたり、敷地内の水やりや草取り、花の植え替えなどを行っている。散歩やドライブに出かけたり、花見や紅葉狩り、外食に出かけることもある。行事の際は家族に連絡し協力を仰いでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居された時点からお金の管理ができなかったり、買い物ができない方が殆どである。財布を持っていることで安心感を持つ利用者もいるため家族の了承の元、居室に財布を置いている。利用者によっては外食時等に支払いをしようとされるので一度こちらで預かり、本人のプライドを傷		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の依頼があれば対応している。手紙はポストへの投函援助を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けをしたり、利用者が安全に過ごせるように物品の配置等環境整備をしている。室温や湿度管理も行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアやウッドデッキ、居室など思い思いの場所で過ごしていただいている。利用者同士が楽しく会話できるように配席を工夫している。必要に応じ職員が間に入ったり、話題の提供を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を自宅から持ち込んでもらったり、写真や塗り絵などを飾っている。また居室で安全に過ごせるように家具の配置に気を付けている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に過ごせるように物品の配置に気を付けたり、居室の場所が分かるよう表札をドアに掲げている。居室で過ごす時に移動に援助が必要な方にはベッドに鈴をつけさせていただき、職員を呼ぶよう声かけしている		